

# 公立大学法人福岡県立大学

## I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

平成30年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中全て（教育、研究、地域貢献及び国際交流、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供）について「順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡県立大学では、全学横断型教育プログラムの充実を図るとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、地域貢献活動を積極的に実施するなど着実に取り組んでいる。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の平成30年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で一定の成果をあげている。

引き続き、地域貢献活動等に積極的に取り組むとともに、大学の理念の実現を目指し、教育研究をはじめとした業務の充実に向けた取組を更に推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

## II 項目別評価（中期目標項目別評価）

### 1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
  - ・学生のニーズや成長課題を踏まえ、全学横断型教育プログラムの充実を図るとともに、包括的な専門教育プログラムの導入に向けた検討を行うなど、特色ある体系的な教育課程の編成に取り組んでいる。
  - ・導入教育科目として、新たに2科目を開講するとともに、教養演習の教科書の改訂や習熟度に応じた語学教育を実施するなど、教養教育の充実を図っている。
  - ・人間社会学部において、公認心理師受験資格に係る新カリキュラムを開始するとともに、保育士養成課程の改正に合わせたカリキュラムの見直しを行っている。
  - ・看護学部において、従来の領域の枠を越えたワーキンググループを立ち上げ、看護実践力強化に向けた検討を行うとともに、「ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム」の構成大学を中心に、オンデマンドでの講義の相互受講を図っている。
  - ・保健師、社会福祉士、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。
- (2) 高度専門職業人の人材育成
  - ・大学院生を対象としたアンケート調査や座談会の実施により、学生の意見を積極的に取り入れ、シラバスの様式を全面改訂するなど、大学院教育の充実を図っている。
- (3) 教育活動の活性化
  - ・教員を対象としたセミナーや授業参観ウィークの実施等、ファカルティ・ディベロップメントの推進を図るとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の充実に向けた検討を行うなど、教育活動の活性化に努めている。
- (4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保
  - ・志願者の利便性の向上に向けて、インターネット出願への移行準備を進めるとともに、オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、高校訪問等、入試広報活動に積極的に取り組み、志願倍率が高水準を維持している。
- (5) 学生の学修支援と生活支援
  - ・学生の自主的学修を促すための図書館セミナーの開催や、GPAを活用した個別の学習支援、留学生等多様な学生への支援体制に関するニーズ調査の実施など、学生の学修・生活支援の充実を図っている。
- (6) キャリア支援
  - ・系統的キャリア形成支援講座やインターンシップ・プログラム等を実施するとともに、教職協働体制を構築し、就職ガイダンス等を実施するなど、きめ細かなキャリア形成支援に取り組み、就職率が高水準を維持している。

## 2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ヘルスプロモーション実践研究センターと生涯福祉研究センターの既存事業を見直し、研究機能を促進する事業へと転換を図るなど、附属研究所における研究機能の強化を図っている。
- ・科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っており、外部研究資金の獲得に努めている。

## 3 地域貢献及び国際交流

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター等において、資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談件数が5,000件となり、大幅に増加するとともに、キャンパス・スクール事業における登校開始率が過去最高を達成するなど、不登校・ひきこもり対策を積極的に行っていることや、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した回数が前年を上回るなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援していることを評価する。
- ・交流協定締結校との教員交流や学生の短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流の推進を図るとともに、留学生（派遣・受入）数が目標を上回っている。

## 4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 附属研究所長に生涯福祉研究センター等の予算管理権限を付与し、各センターの事業計画等に基づき、適切に予算を配分するなど、自主的な大学運営に努めている。
- ・ 事務局機能の強化に向けて、外部研修会への職員派遣や大学改革セミナーを実施するとともに、プロパー職員の人事評価制度を試行的に導入した。

## 5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。

## 6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ 大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、高校訪問、入試説明会等の機会を通じて、大学の情報を広く発信している。